



たくましい村松っ子

令和7年11月28日 第13号
文責：校長 日高 文博

12月の生活目標：健康・安全に気をつけて生活しよう

ぞうさん

12月4日～10日は人権週間です。いじめや差別など様々な人権問題を「誰か」の問題でなく「自分」の問題として捉え、互いの人権を尊重し合う意識を深める取り組みです。ある人権に関する研修会で教えてもらった話を紹介します。

まどみちおさんの代表作「ぞうさん」は、昭和26年（1951年）に作詞されました。やさしい言葉で綴られたユーモアあふれる詞の数々は何十年も変わらず子どもたちに愛されてきました。

まどみちおさんは、「ぞうさん」について、次のように語っています。

「この世で鼻が長いのは象だけなので、“おはなが ながいのね”と言われるのは、笑われているようなもの。しかし、象は褒められたかのように、“そうよ 母さんもながいのよ”と応える。他の動物とは違っていても、自分が自分であることは、素晴らしいことなんだ、と象がかねがね思っているからなんです。」

この歌には「象さん親子の豊かな触れ合い」が感じられます。

もし、この親子がキリンなら、「キリンさん、キリンさん、お首が長いのね。そうよ、母さんも長いのよ。」となるでしょう。お猿さんなら、……

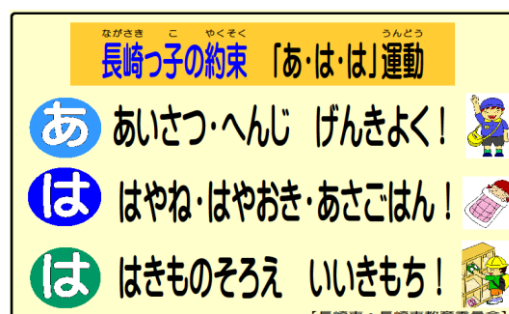
もし、象さん、キリンさん、お猿さんがお互いの違いを取り上げて、口々に批判し合ったらどうなるでしょうか。「違うことがいけないこと」と無意識に強化されていくこととなります。みんなが同じにならなければいけないのなら、象さんは、鼻が長くて、首が長くて、お尻が赤い動物となります。こんな象さんは、もはや象さんではないのです。みんなと違うから、象さんは象さんでいられるのです。

人権とは、「自分らしく生きる権利」とよく言われます。そのためには、まずすべての人が、自分が自分らしくあることに、自信をもつ社会をつくる必要があります。

まどみちおさんは、次のようにもおっしゃっています。

『目の色、髪の色が違って、みんな仲良くしよう』、などとよく言われますが、わたしは、『目の色、肌の色が違うから、仲良くしよう』といつも話をしていきます。」

まさに、一人ひとりの価値を大切にしている考え方だと思います。



交流会

11月21日（金）の午前中に特別支援学級交流会が開催されました。形上小と長浦小のお友達が村松小に集まり、ゲームやかけっこなどを通して楽しい思い出をたくさん作り、心の交流を深めました。村松小のみんなはホストとして飾りつけや表題書きなど、みんな準備を進めてくれました。交流後は、みんな、「お友達がたくさんできた！」と喜んでいました。これからも交流を続けていきたいと思います。



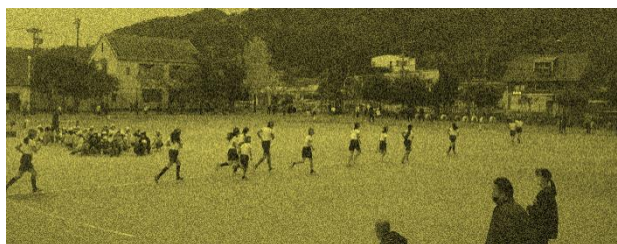
読書月間

11月は読書月間でした。この期間、読書の楽しさを体験し、より良い読書習慣を身に付けることや、図書室の正しい利用の仕方を知り、本を大切にしようとする気持ちを育てるという目的で行われました。各学級、目標冊数を決め、たくさんのお本に親しむ時間を多くもち、読書ビンゴやおすすめの本紹介、シャッフル読み聞かせなど、工夫した取組も実施されました。今後も多くの本にふれあってくれることを願っています。



持久走記録会

今週は各学年、持久走記録会が実施されました。子どもたちは、これまでの練習の成果を存分に発揮し、寒さに負けず、力強く走り続けました。素晴らしい頑張りでした。保護者の皆様にも多くの声援をいただき、ありがとうございました。どうぞ、頑張った子どもたちをたくさん褒めてあげてください。



※画像は個人が特定されないように処理しています。